



長崎市立矢上小学校 学校だより

『笑顔が花咲く矢上小』

合い言葉「よく学び よく遊べ」

令和6年12月24日

NO. 37

校長 白水 聡

クリスマスの読み語り



左の写真は、フレディの皆さんによる読み読みの様子です。昼休みに自由参加で行いましたが、たくさんの子供たちが集まっていました。

「だれかのプレゼント」というクリスマスにぴったりの本を聞かせてくださりました。ある先生は「読み方が上手で、絵もきれいでうっとりしました。優しさあふれるお話で、ほっこりしました。」と話していました。私も聞きたかったです…。

最後に2名のサンタも登場し、フレディの皆さんからのプレゼントを配っていました。楽しい会をありがとうございました！

2学期もありがとうございました！

令和6年もあと少しとなりました。月日の経つのはほんとうに早いものです。

さて、今日で2学期も終わりです。今学期も多く行事が行われ、様々な場面で、それぞれの学年が実り多い学習を進めることができました。その一端をこの学校だよりでお伝えしてきましたが、記事を作りながらつくづく、「地域や保護者の方々の力に支えられている」という実感を強くしました。全員が無事で2学期の終業式を迎えられることも、大変ありがたく、嬉しいことだと感じています。

さて、年末年始はご家族でゆっくりと年越しを迎えられることでしょうか。そこで一つ、ぜひ取り組んでいただきたいことがあります。それは「読書」です。以前読んだ読書に関する本の中に次のようなことが書かれてありました。

「本を読むとは、ひとところに座って、一つのことに集中する行為です。知らぬ間に集中力や忍耐力が養われています。これらの力は、長丁場である受験勉強に欠かせないものです。本を読む子なら机の前にじっと座っていることに耐えられないなどということはありません。」

「将来の学力向上を見据えたときに、何にもまして国語力が重要である。」

「読書のいいところは、その直接的な目的が『勉強』ではない点です。楽しむために本を読み、登場人物に感情移入するといった体験を重ねた結果、知らず知らずのうちに国語力がついているのです。」

【～本を読む子は必ず伸びる 樋口裕一著～】

また、斎藤孝さんは『子どもにとって読み聞かせは至福の時間である』と著書「読書のチカラ」で述べています。それなのに私はあまり息子や娘にその時間を与えてこられなかったな…と反省するばかりです。長男は社会人、長女は高3、次女は中3。もう遅いです…。

好きな本を見つけて、本の楽しさを知ることは、子供たちの人生にきっと豊かな彩りをあたえてくれます。ぜひ冬休みに、温かい部屋の中で、読書に親しむ時間をつくっていただき、家族のだんらんを楽しんでいただければ幸いです。私も書店に娘を連れて行って、好きな本を選ばせたいと思っています。

最後になりましたが、今年の矢上小学校の教育活動にご理解ご協力いただき、誠にありがとうございました！

また、来年もよろしくお願いいたします。

メリークリスマス！ そして、よいお年を。